

case no.11

兵庫県パン商工組合

組合員のために講習会、セミナーを開催
パンの地位向上を目指した情報発信も

company profile

設立年：1954年

事業内容：経営及び技術に関する講習会・研究会の開催、パン食の普及活動及び消費へのPR、市場調査及び消費者の動向調査ほか

ザクッと言うと **3** ポイント

1. 個々の企業への中央会支援活用拡大に取り組んでいる
2. 情報発信に SNS を活用
3. 今後は異業種とのコラボレーションも進めたい

兵庫のパン業界を盛り上げたい

兵庫県パン商工組合は、兵庫県学校給食パン、米飯協同組合や兵庫県パン協同組合の連合組織として設立し、兵庫県下のパン屋を束ねている。兵庫県中小企業団体中央会（中央会）の支援をいかに利用されているのか、事務局長の相澤氏、顧問の三村氏に話を伺った。

兵庫県パン協同組合の歴史は古く、昭和20年代に遡る。高度成長、オイルショック、バブル期とその崩壊、長引く不況…昭和から平成へと激動の時代を歩み現在に至る。中央会とは商工組合設立時以来の長い付き合いだ。当初は主に商工中金とのパイプ役として中央会が存在していた。

近年では、「活路開拓実現化事業」、「研修会事業」などを活用し、セミナーや講習会を行っている。主催する「パングランプリ兵庫パンコンテスト」でもインターン学生を受け入れ、facebook などを利用した情報発信を行い好評を得た。



パングランプリ兵庫パンコンテスト facebook ページ

町の小さなパン屋にこそ IT を



事務局長 相澤氏

パン屋を活性化するためには、何より集合体である組合が元気であることが肝要と考える。ゆえに常にアンテナをめぐらせ、情報収集を積極的に行ってきた。

町の小さなパン屋では、後継者問題やコンビニの台頭、設備の老朽化など、悩みが絶えないのが現状だ。

歴史ある兵庫県のパンのブランド力をいかに高めていくのか、小さなパン屋の存在意義をどうやってアピールするのか、抱える課題が多い中、中央会の支援を個々のパン屋へも広げたいと尽力している。IT化も必須と考える。

組合員の「株式会社原田パン」は、専門家派遣や「バーチャル展示会 HYOGO!」など、中央会の支援を活用し、ホームページや動画での情報発信に成功した。職人の意識も高まり、パングランプリへも積極的に参加している。



顧問 三村氏

「パンのまち神戸」から パンの地位向上のために発信し続ける



「パングランプリ兵庫パンコンテスト」で審査員も務める
中央会 香川（左）、野木

今年は「第5回日本全国ご当地パン祭り」が神戸にやってくる。東京以外での開催は今回が初となる。中央会主催の「ひょうご特産品フェア」との同時開催で盛り上げる予定だ。

また、昨年引き続き神戸市、中央区後援の「見る・知る・食べる・パンのまち神戸」も予定している。「パンのまち神戸」の魅力をPRし、パンの地位向上を目指す忙しい日々が続いている。

担当者からひとこと

大量生産による格安パンがどんどん増え続け、早朝からあるいは土曜・日曜を問わず手作りパンを焼き続ける職人さんが報われない仕事になってきているとお聞きしました。パン技術のレベル向上と、パン屋がいかに安心して美味しいパンを作っているかを消費者にアピールするために開催しているパングランプリを審査員として、また運営や情報発信をサポートするだけでなく、個々のパン屋の頑張りにも応援していきたいです。



担当者：香川 浩子